

事業名		代表者所属	特定非営利活動法人三次科学技術教育協会
16 KJ-028		代表者	専務理事 寺重 隆視
科学実験で地域を繋ぐ。保護者、学校、そして子どもたちが創る輪～家族ぐるみで研究員～		開催地	三次市
		助成金額	15万円
活動概要	<p>日時 2016年6月11日～2017年5月31日</p> <p>場所 三次市生涯学習センター内</p> <p>対象 児童・生徒、保護者、教員等</p> <p>参加者(43人) 内訳(小中高の先生;3人)(児童・生徒;22人)(保護者18人)</p> <p>内容 家庭の科学技術リテラシーの向上を企図し、質問・相談の機会を定常的に設け、それをもとに体験的な研修会を、授業と関連付けて企画実施した。</p> <p>質問・相談会;53件、科学教室;5件</p>		

### 事業の目的・ねらい

本事業は、子どもたちの科学技術リテラシー向上のため、この分野の体験活動(実験・工作)を、家庭において継続的に実施できるよう、子どもたちと保護者に対し学びの機会を提供するための方法としくみを確立することを目的とした。特に、当協会は役員を含め全員がボランティアで構成されているため、事業を継続的に実施できる体制を確立するとともに、学校での授業を意識し、家庭においては子どもたちと保護者とが協働して学びを効果的なものとする点に注力した。

### 事業の概要

1. 日時: 日時 2016年6月11日～2017年5月31日の毎週金曜日(原則)および学校の休日
2. 場所: 三次市生涯学習センター(〒728-0013 三次市十日市東 3-14-25)3階当協会ラボ
3. 対象: 主として小・中学校の児童および保護者
4. 実施方法:
  - ①毎週金曜日(原則)の16時から18時まで間、「金曜科学なぜなぜ教室」を53回開室した。
  - ②「金曜科学なぜなぜ教室」では、児童・生徒、保護者等が自由に来室して、それぞれ好きな実験を行えるよう、また日頃疑問に思っていることを気軽に指導スタッフに質問できるよう、環境づくりを行った。
  - ③上記②による児童・生徒、保護者の活動を観察しながら、児童・生徒が興味・関心を持っている分野を見出した。あるいは会話の中から新たな興味を引き出した。
  - ④上記③で見出され、あるいは引き出された興味・関心に従って、新たな科学工作教室を別途設定した。テーマは「光の性質」、「望遠鏡の製作」、「電気の実験」、「飛行機」等であった。
  - ⑤夏休みの自由研究課題のテーマ設定についてのアドバイスをを行った。
  - ⑥夏休みの自由研究について、実験場所を提供するとともに、実験の計画、材料の調達方法、実験の実施方法(「コツ」なども含む)、まとめ方、などについて、指導を行った。
  - ⑦上記①～⑥までの指導においては、学校のカリキュラムにも配慮し、学校の先生とも連絡を取り合い、児童・生徒を励ましていただいた。
  - ⑧保護者との連絡には、電子メール等の通信手段も駆使し、時間を気にせずに質問をしていただいた。

## 結果・効果

1. 参加者数: 児童・生徒 22 名、保護者 18 名、小・中学校の教員 3 名であった。
2. アンケート結果: 「楽しかったか?」、「ためになったか?」、「また来たいか?」という設問に全員が肯定的に回答した。また自由記述欄もからも興味・関心や積極性が感じられた。
3. 児童の自由研究に関する評価: 本事業の参加者で 2016 年度三次市科学の賞佳作以上であった児童・生徒の人数は 5 名であった。
4. 参加者の感想・意見・要望等の一部(自由記述): ・身近なもので望遠鏡を作れて楽しかった。・作った望遠鏡でいろいろな物を見てみたい。・家族で星を見てみたいです(保護者)。風の流れや重力についてよく知ることができました。・ベルヌイの定理が分かった。・飛行機の翼の上側は本当に風が速くなっているか実験したい。・子供にもとても分かりやすくご説明いただき、とても勉強になりました(保護者)。・家にあるもので簡単にできるのがとても良いと思いました(保護者)。・電気や電池を利用した工作をやってみたい(保護者)。・ロボット、プログラミングをやってみたい。
5. 総括: 以上より、目的・ねらいに対し一定の成果を得たものとする。当協会は、役員も含め全員がボランティアで構成されているため、活動の安定的持続、という点については工夫や改善の余地がある。

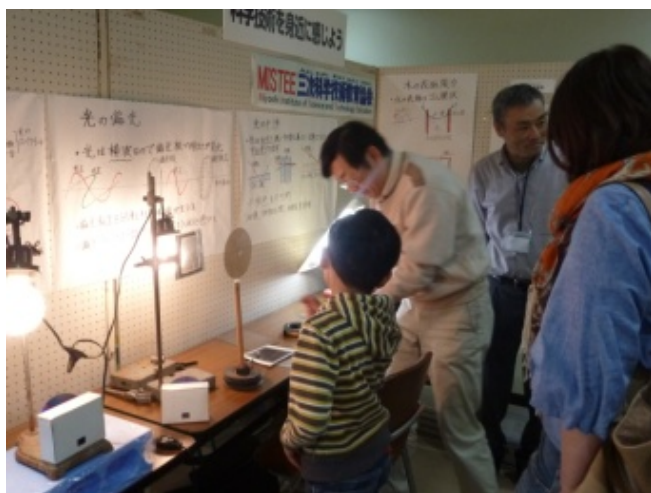


写真1 偏光の実験



写真2 望遠鏡の製作



写真3 製作した望遠鏡で観測の練習



写真4 電気の実験